

職場支配権を守りぬくぞ

各支部で反撃
の闘い進む

日刊 勤労千葉

82.5.22

No. 1050

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六公巻)品三〇七

一切を「6.5労働者集会」の成功へ

すでに日刊(一〇四六号)でも明らかのように、第二臨調第四部会(加藤会長)による「第四部会報告」が発表され、5月18日マスコミによりいっせいに報道された。

この「第四部会報告」での中心環は国鉄であり、国鉄の「分割・民営化」論こそ体制側からの国鉄労働運動解体攻撃そのものである。

いま職場支配権の逆転をかけた当局の攻撃が強まる中で「六・五労働者集会」の成功を通して反撃の闘いを開始しよう。

第二マル生攻撃を粉碎し、既得権を守れ

部会報告では、新形態移行まで緊急措置として「職場規律の確立」ほか十一項目にわたって報告されている他、「国鉄再建監理委員会」の設置、五年以内のすみやかな分割・民営化」がもりこまれている。

今次の攻撃は従来の「再建合理化」とは一変した第二マル生であり、にもかかわらず動労「本部」は「働こう運動」にみられるように総屈服し、それどころか当局の先兵となって合理化に積極的に協力し、闘う国鉄労働者を弾圧してきている。

いまこそ、あらゆる力と英知を結集し政府・権力・当局・動労「本部」革マル一体となった国鉄労働運動解体攻撃に対し、反撃の糸口を見つけ、闘いに決起しなければ勝利の道はありません。

第二マル生を粉碎し、既得権を守ることは、現場における力関係の優位性を維持することであり、あらゆる戦術を駆使しながら、全組合員が一丸となって決起することがきわめて重要である。

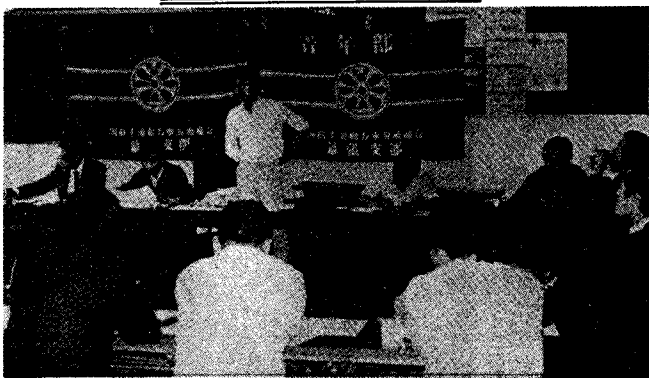
各支部で反撃の

闘い進む

すでに各支部では、そのための機関開催など準備体制を着々と整えている。

新小岩支部では6日から15日まで個別オルグを開催して意志統一をはかった。

津田沼支部では12日から15日までの4日間にわたって全組合員対象とした対話オルグ、17日には「職場規律の確立」についての当局への申入れ、18日には執行委員会の開催。



幕張支部で開かれた反弾圧支部激励交流(5月6日、館山・勝浦・千葉支、新小岩の代表も参加)

千葉運転区支部では、7日に執行委員会の開催、12日からは、それぞれ担当執行委員が入り、班会議を開き、反弾圧・既得権剥奪・第二マル生粉碎にむけて組合員の意志統一をはかり、20日に執行委員会を開催した。

館山支部では、5月12日職場集會を開催、20日には「職場規律の確立」についての現場協議の申入れを行った。

蘇我支部では、9日から15日までの全組合員を対象とした対話オルグの徹底化をはかった。

銚子支部は、5月6日に当局から「職場規律の確立」についての申入れに対し、10日に職場集會を開催、14日には現場当局に対し申入れを行った。

木更津支部では、26日に職場集會を予定している。

非協力闘争で闘おう

以上のように支部としての具体的取組みがはかられているが組合員の意見は、「ここまでできたのか!これからも長年築いてかちとった既得権は奪われてはならない。」等々の意見が出され、「このままいけば大変なことになってしまふ!」と真剣に受けとめ、非協力闘争で自らを守るためにがんばろうとの意見が大勢をしめている。

いま労働者として何をなすべきかが問われている。われわれは、自らを守るため、6月5日には闘う労働者を結集して、迫りくる大反動に対決する労働者を集めきって、大集会の成功をかちとることがいまま極めて重要であり、そのために全力で結集されんことを訴えます。